

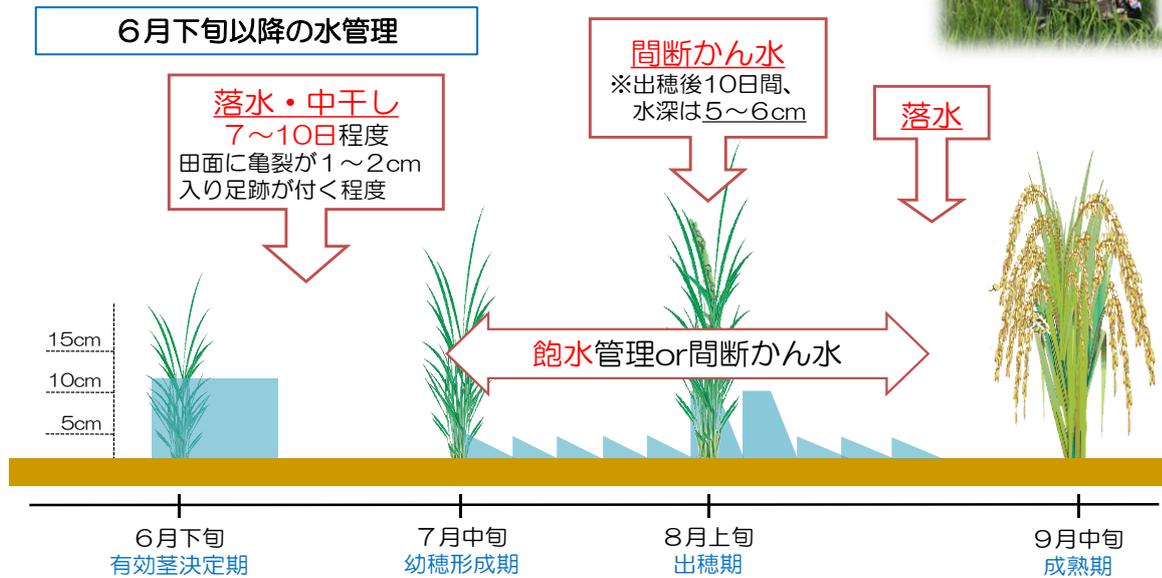
営農支援情報

幼穂形成期に向けた圃場管理のポイント

1. 水管理について（あきたこまちの場合）

- 6月下旬～7月上旬：無効分げつの抑制のため、落水 → **中干し**
- 7月中旬～8月上旬（幼穂形成期～減数分裂期～出穂前）：飽水管理
- 8月上～中旬：**出穂初め**は間断かん水 → 飽水管理 or 間断かん水
- 9月上～中旬（成熟期）：落水管理、ただし出穂30日後頃とする。

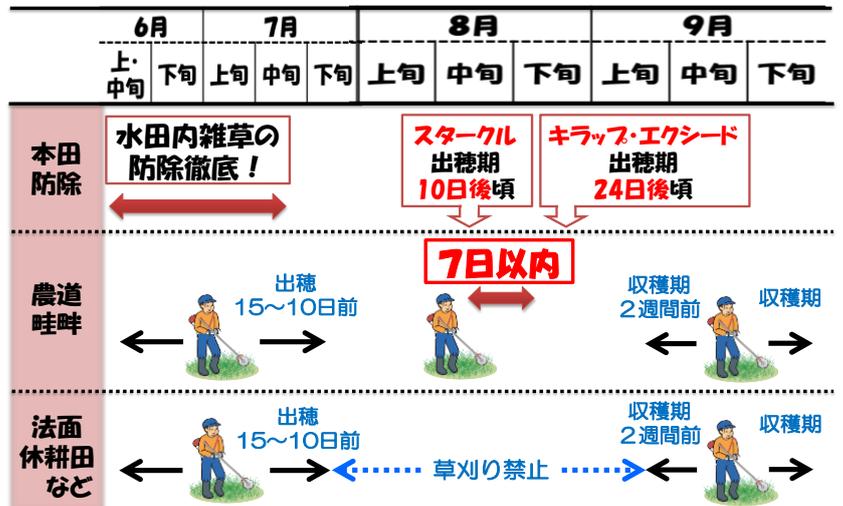
◆中干しの効果を高めるために◆
排水不良田や、有機物等が多く異常還元が起きやすい圃場では溝切りをオススメします。



2. 斑点米カメムシ類対策

今年の斑点米カメムシ類の発生時期はやや早いと予想されます。水田内に雑草が多発すると、アカスジカスミカメの水田内への侵入が助長されるため、中・後期除草剤の使用にあたっては、発生雑草の草種や生育程度を観察して、適切な薬剤を選択してください（6/24発表、農作物病害虫発生予察情報第3号7月予報より）。

被害を防ぐには、適期に薬剤防除を行うだけでなく、発生や侵入を防ぐために水田内外の雑草管理も重要です。

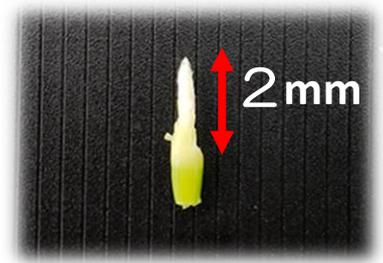


- 水田内にヒエ・ホタルイが残草している場合は、早めに追加防除を！
- 農道・畦畔等の草刈りは、適期に行いましょう！

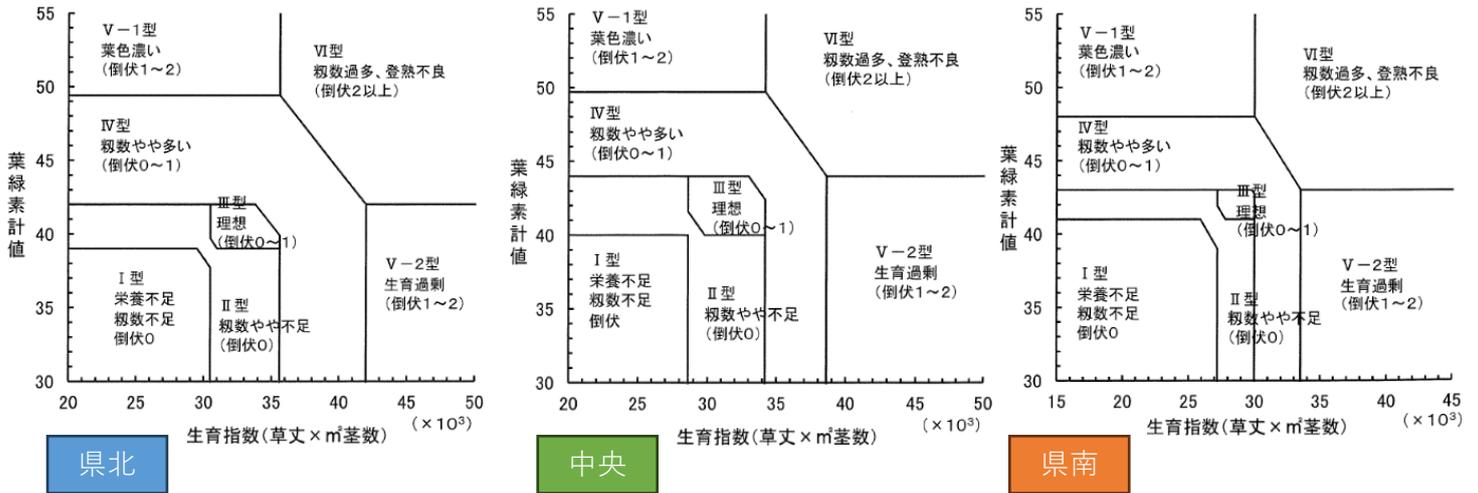
3. 生育診断に基づいた穂肥

幼穂形成期から減数分裂期における穂肥の判断は、生育・栄養診断の結果に基づいて適切に行いましょう。

【幼穂形成期】
 (右図参照・幼穂長 1~2mm、あきたこまちで例年7/15頃)



あきたこまちの幼穂形成期における栄養診断



あきたこまちの理想生育量 (幼穂形成期)

	草丈 (cm)			茎数 (本/㎡)			葉数 (葉)			葉緑素計値		
	上限	理想	下限	上限	理想	下限	上限	理想	下限	上限	理想	下限
県北	62	60	57	586	552	519	11.0	10.8	10.6	42	40	39
中央	63	61	58	559	515	471	10.9	10.7	10.5	44	42	40
県南	64	62	60	484	463	443	11.0	10.9	10.7	43	42	41

栄養診断に基づいた追肥量 (あきたこまち)

生育型	窒素追肥量 (kg/10a)	
	幼穂形成期	減数分裂期
I型	2kg	2kg
II型	2kg	2kg
III型	△ラ直し1kg	2kg
IV型	なし	2kg
V-1型	なし	△ラ直し1kg
V-2型	なし	△ラ直し1kg
VI型	なし	なし

※目標数量：570kg/10a

【減数分裂期】

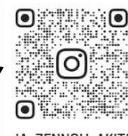
(幼穂長 3~12cm・葉耳間長±0cm、例年7/25頃)

- ①幼穂が伸長し、**籾数・千粒重**に影響を及ぼす**もみ殻の大きさ**が決定する時期
- ②倒伏に影響を及ぼす**下位節間**が伸長する時期
- ③出穂後の登熟に影響を及ぼす**根域**が拡大する時期



JA全農あきた公式
ホームページはコチラ！

公式インスタ
秋田の農業応援団！



JA_ZENNOH_AKITA

美人を育てる
秋田米です 🌱



BIJINAKITAMI

営農支援部 営農支援課 ☎018-880-1011



Zennoh-akita agriculture+reform
Za・あぐりふぉーむ

JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふぉーむ
 第65号 令和7年7月7日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒011-0901秋田市寺内字大小路207-24 018-880-1011